

第5回「対話を行う場」にて、直接回答ができなかったご質問につきましては、後日回答を作成し、参加者の皆さまのお手元にお届けいたします。

なお、NUMOのホームページにも掲載いたします。

時間の都合で回答できなかったご質問

@核燃料がどのような仕組みで発電しているのか。

@プルサーマル(MOX燃料)のその先はどうなるのか。

☆玄海交流センターの開館時間の延長について！！

下記の期間は、開館時間を通常よりも延長しております。文献調査など、日ごろ疑問に思われていることや知りたいことがありましたら、お気軽にお越しください。

<平日の開館時間延長>

- ・ 6月 8 日(月)～12 日(金) 10:00～17:00 ⇒ 10:00～19:00
- ・ 6月 22 日(月)～26 日(金) 10:00～17:00 ⇒ 10:00～19:00

<休日開館日>

- ・ 6月 13 日(土) 10:00～15:00
- ・ 6月 21 日(日) 10:00～15:00



【公募】 町民の皆さま
「対話を行う場」に参加してみませんか

「対話を行う場」実行委員会事務局より

- 開催は平日の夜に2時間ほどを予定しております。
- 参加者は町民の方で1回あたり20名程度、うち5名程度の方を公募しております。
- 次回の開催日時は現在調整中ですが、公募は継続して受け付けております。
申込みいただいた方には、日程が決定次第ご連絡を差し上げます。
- 参加ご希望の方は「玄海交流センター(52-5011)」までご連絡ください。

交流往来



6月になり入梅の時期が近付つつあります。昨年は空梅雨となり夏は異常な暑さでした。気象庁によると1898年の統計開始から夏として1位の高温となり、国内の史上最高気温41.8度(群馬県伊勢崎市)を観測しました。長期予報では、今年の夏もここ数年のように記録的な「猛暑」が続くおそれがあるそうです。例年より早めに夏の暑さに体を慣れさせる「暑熱順化」を行って熱中症にならないように心がけたいものです。<M>

問い合わせ先：NUMO(原子力発電環境整備機構)玄海交流センター ☎(0955)52-5011

～ NUMO玄海交流センターだより ～

このお便りは、玄海町における高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する文献調査の開始に伴い、原子力発電環境整備機構(NUMO/ニューモ)から町民の皆さまへ調査に関する情報をお知らせするものです。

@唐津ロータリークラブ様主催例会にて事業概要をご説明

唐津ロータリークラブ様から「地層処分事業の概要」及び「玄海町における文献調査の進捗状況」に関する説明のご依頼があり、4月中旬に開催された定期的な例会において、当センター所長の橋口からご説明申し上げました。



ご参加いただいた会員の皆さまから、ガラス固化体の貯蔵方法や使用済み燃料の再処理などについてのご質問をいただきました。今後ご要望がありましたら、当センター職員がご説明にお伺いいたします。



@玄海みらい学園教職員有志の皆さまに対し事業概要をご説明

「地層処分事業の概要」及び「玄海町における文献調査の進捗状況」について所長の橋口からご説明申し上げました。教職員の皆さまは、当機構の地層処分事業を含めた町内における各種取り組み状況の把握を目的とした研修プログラムの一環としてご来所いただきました。様々なご質問も頂戴いたしました。ありがとうございました。



@名勝地「浜野浦の棚田」周辺道路のクリーンアップ活動

名勝地「浜野浦の棚田」を起点とした前後約1kmの国道沿いを中心に、センター職員でゴミ拾いを行いました。見ごろを迎え、観光客がたくさん来町される前に、棚田の良い景観の維持に少しでも貢献したいとの思いでした。今後も、定期的に美化活動を行ってまいります。



第5回「対話を行う場」開催報告

「対話を行う場」は玄海町の皆さまに文献調査の進め方や進捗状況及び地層処分事業について“知っていただくこと”“意見交換していただくこと”を目的としております。昨年4月より開催し、本年度最初となる第5回目を開催いたしました。

当日の様子は、これまでと同様にケーブルテレビ「チャンネル玄海」にて放送するとともに、NUMOのホームページにて公開いたします。

◎開催結果の概要

日時 2026年4月15日(水) 18:00~20:15
会場 玄海町役場 4階大会議室
参加者 18名(各種団体所属15名、一般公募3名)
進行役 吉田まりえさん(九州の暮らし創造研究所代表)
主催 「対話を行う場」実行委員会 八島委員長ほか3名
オブザーバー 玄海町、経済産業省

当日のプログラム

開会・実行委員会挨拶

情報提供:地層処分事業の概要
文献調査の進捗状況

意見交換(非公開)

ご意見・ご質問への回答
(非公開)

主なご質問と回答

@国及びNUMOは玄海町と北海道2地点の文献調査結果を比較し、候補地点を絞り込む等の対応はしないのか。また、玄海町はどれくらい処分地として適しているのか。

日本では、ガラス固化体を4万本以上埋設できる施設を全国に1か所建設する計画です。そのためには、処分場建設に適した長期的に安定した地質環境を、より多くの調査候補地の中から絞り込むプロセスが必要と考えております。

先行する諸外国の例でも、5~10か所程度の地域から、段階的な調査を経て最終的な候補地が選定されています。一方で、既存の文献だけでは地下深部の地質に関する情報が限られており、文献調査だけをもって、各地域の地質環境の特性を比較・評価することは困難であると考えています。

寿都町、神恵内村、玄海町、南鳥島の4か所に加え、今後も地域の皆さまのご理解を得ながら文献調査を実施する地域を増やしてまいります。《回答:NUMO》



進行役より皆さまへ



吉田まりえさん

第1回の「対話を行う場」から進行役を務めています。

参加される皆さんが安心して率直に話せるよう、中立的な立場での進行を心がけています。これまで100名近い町民の皆さんにご参加いただき、多くのご意見やご質問をいただきました。

「対話を行う場」は賛否を問う場ではなく、まずは「文献調査」や「地層処分」について知っていただくことを第一に運営しております。私自身も「文献調査」や「地層処分」については初めて聞くことばかりでしたが、同じ目線で疑問を持ち、考え、共有することを大切にしながら、共に学び合える場にしていきたいと考えています。

これからも町民の皆さんと一緒に、理解を深めていければと思います。

@狭い玄海町において最終処分場を建設することは本当に可能なのか。

地上施設は1~2平方km、加えて地下より300m深い箇所を設置する地下施設は6~10平方kmの面積を想定しておりますが、海域での設置も技術的に可能と判断しております。

なお、玄海町の面積は36平方km(陸域面積)ですので、単純計算では、面積の観点においては玄海町にて事業を実施することは可能であると考えられます。

《回答:NUMO》



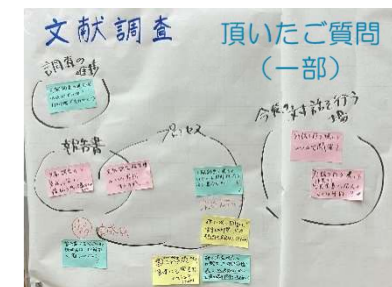
@概要調査への移行を判断する際に玄海町周辺住民の意見は反映されるのか。

文献調査の結果は報告書の形で取りまとめ、玄海町及び周辺住民の皆さまにもご覧いただけるよう、NUMO玄海交流センターに設置するとともに、NUMOのホームページで公開させていただく予定です。

併せて、文献調査の結果を広く皆さまにお伝えするための説明会を開催するとともに意見募集の期間を設け、玄海町及び町周辺住民の皆さまのご意見をお聴きするよういたします。《回答:NUMO》

@文献調査結果報告書は専門用語が多く難しい内容になると考えるが町民が理解できないのではないのか。

報告書は活断層や火山等について技術的に詳細に評価することから、難しいと感じられる方もいらっしゃると思います。当機構としては、報告書を取りまとめた後に説明会を開催させていただき、できるだけ分かりやすく丁寧にご説明させていただきたいと考えております。《回答:NUMO》



@ガラス固化体は製造された後に青森県六ヶ所村において何年間保管するのか

製造直後のガラス固化体は放射能が高く、発熱を伴うことから、処分場への埋設処分に適した温度に下がるまでの30~50年程度、冷却するために六ヶ所村の地上施設で安全に貯蔵・管理されます。《回答:NUMO》

主なご意見

@地層処分以外の新しい手法の可能性を考えておくべきでは

@次の世代の話も聞いて決めてほしい

@もっと全国の人達が知るべき話だと思う

@実際に北海道の施設見学に行ってみよう

など



*その他のご質問への回答は、後日NUMOのホームページに掲載いたします。

ご質問への回答集や情報提供資料はこちら

NUMO ホームページ「文献調査:佐賀県玄海町調査の状況と対話の記録」
https://www.numo.or.jp/chisoushobun/survey_status/genkai/



NUMO
ホームページ